

## 新経済政策の諸条件のもとでの労働組合の役割と任務について

一九二二年一月十二日付のロシア共産党（ボ）中央委員会の決定

### 一 新経済政策と労働組合

新経済政策は、プロレタリアートの地位に、したがってまた労働組合の地位にいくつかの根本的な変化をもたらしている。工業と運輸の分野の生産手段の圧倒的な部分は、プロレタリア国家の手にのこっている。土地の国有とあいまって、この事情は、新経済政策が社会主義建設の方法と形態を根本的に変えはしても、労働者国家の本質を変えるものではないことを、しめしている。なぜなら、新経済政策は、市場を通じて何百万という多くの農民の要求をみたすことを基盤にして、建設途上の社会主義と復活をめざす資本主義との競争をゆるしているからである。

社会主義建設の形態の変化は、資本主義から社会主義へ移行する政策全体のうで、共産党とソヴェト権力がいまこの移行の特殊な仕方を実行しており、多くの点でこれまでとはちがった方法で行動し、いわば「新たな迂回」によっていくつかの陣地を攻略し、退却をおこない、そうすることによってもっとよく準備をととのえ、ふたたび資本主義にたいする攻勢に転じようとしているという事情からきている。国家的な規制をくわえられる自由商業と資本主義が現在ゆるされ、発展しており、他方では、社会化された国営企業が、いわゆる採算制に、つまり商業的原則にうつされている。国が一般に文化的に立ちおくれ、疲弊しているので、このことは、大衆の意識のなかでは、企業の管理部と、その企業で働く労働者との対立を、不可避免的に程度の差こそあれ感じさせるようになるであろう。

### 二 プロレタリア国家における国家資本主義と労働組合

プロレタリア国家が自分の本質を変えないで、商業の自由と資本主義の発展とをゆるすことができるのは、ただある程度までであり、国家が私的商業と私経営的資本主義を規制する（監督し、統制し、形態や方式を決定などする）ばあいだけである。このような規制がうまくいくかどうかは、国家権力のいかにかかるばかりでなく、なおそれ以上にプロレタリアートと勤労大衆一般の成熟の度合に、つぎに文化の水準などにかかっている。だが、このような規制が完全にうまくいくばあいで、労働と資本の階級的な利害の対立は、無条件にのこる。だから、今後は労働組合のもっとも主要な任務の一つは、資本とたたかうプロレタリアートの階級的利益をあらゆる面から、あらゆる手段でまもることである。この任務は、公然と第一位のものの一つとして推さなければならないし、労働組合の機関は、適当に建てなおし、形をかえ、あるいは拡充しなければならない（苦情処理委員会、ストライキ基金、共済基金などが、もうけられなければならない、もっと正確に言えば、もうけうるものとならなければならない）。

### 三 いわゆる採算制にうつされる国営企業と労働組合

国営企業を、いわゆる採算制にうつすことは、新経済政策と不可避免的に、また切ってもきれないように結びついている。近い将来に、もっぱらこの型のものだけになることがないにしても、この型が優勢となることはまぬかれないであろう。事実上、このことは、商

業の自由がゆるされ、ひろがっていく事情のもとでは、国営企業を大々的に商業的原則にうつすことを意味している。この事情は、労働生産性をたかめ、各国営企業の無欠損と収益性をはかるもっとも緊切な必要があるために、また避けることのできない管轄上の利害や管轄上の過度の熱心さがあるために、企業内の労働条件の問題について、労働者大衆と国営企業の企業長、管理者およびこれらの企業が属する官庁とのあいだに利害のある程度の対立をかならず生みだすであろう。だから、社会化された企業についていえば、勤労者の利益をまもり、可能なかぎり彼らの物質的生活状態の向上をたすけ、経済機関の誤り行きすぎが、国家機関を官僚主義的にゆがめることから出ているかぎり、これをたえず是正する義務が、無条件に労働組合に負わされる。

#### 四 土地、工場等の私的所有をみとめ、資本家階級が政治権力をにぎっている国家におけるプロレタリアートの階級闘争と、土地と大多数の大企業の私的所有をみとめず、プロレタリアートが政治権力をにぎっている国家におけるプロレタリアートの経済闘争との本質的な違い

階級が存在しているかぎり、階級闘争は避けられない。資本主義から社会主義への過渡期に階級が存在するのは避けられない。ロシア共産党の綱領も、われわれが資本主義から社会主義へ移行していくうえの最初の数歩をふみだしているにすぎないと、このうえなくはっきりと述べている。だから、共産党も、ソヴェト権力も、また労働組合も、工業と農業との電化が、すくなくとも大体において完了し、また、電化によって小規模経営と市場の支配とのすべての根が切りとられるまでは、経済闘争の存在とその不可避性を、公然とみとめなければならない。

他方、資本主義のもとではストライキ闘争の最終の目的は国家機関を破壊し、その階級的な国家権力を打倒することであるのは、明らかである。だが、われわれの国家のような過渡的な型のプロレタリア国家のもとでは、労働者階級のあらゆる行動の最終の目的となりうるのは、この国家を官僚主義的にゆがめることとたたかい、この国家の誤りや弱点とたたかい、この国家の統制をふりきってのがれようとする資本家の階級的な欲望などとたたかうことによって、プロレタリア国家とプロレタリア的・階級的な国家権力ををつよめることだけである。だから、共産党も、ソヴェト権力も、労働組合も、つぎの事実をけっしてわすれることはできないし、またそれを労働者と勤労大衆にかくしてはならない。すなわち、プロレタリア国家権力の存在している国家でストライキ闘争がおこなわれることを説明し、正当化することができるのは、ひとえに、一方では、プロレタリア国家が官僚主義的にゆがめられ、国家の諸機関に資本主義的な旧習のさまざまな遺物があり、他方では、勤労大衆が政治的に未発達で、文化的におくれているということだけである。

だから、労働者階級の個々の集団が労働者国家の個々の施設や機関と摩擦や紛争をおこすばあい、労働組合の任務は、その組合が代表している労働者集団にとって最大限に利益になるように、紛争をもっとも迅速に、円満にまとめるのをたすける、ただしこの利益が他の労働者集団に損害をおよぼすことなく、労働者国家とその経済全体の発展の害にならないで実現されうるかぎりであらうことである。なぜなら、この発展だけが、労働者階級の物質的および精神的福祉の基礎をつくることのできるからである。労働者階級の個々

の部分と労働者国家の諸機関との摩擦や紛争をかたづけるただ一つ正しい、健全で、妥当な方法は、労働組合が、そのしかるべき機関の手を通じて、双方の正確にまとめあげた要求と提案にもとづいて、しかるべき関係経済機関と交渉をはじめるとなり、上級国家機関に提訴するなりして、調停者として干渉することである。

経済機関の正しくない行動、ある労働者集団の立ちおくれ、反革命分子の挑発活動、あるいはまた、労働組合組織そのものが慎重を欠くために、国家企業その他で、ストライキの形をとった公然の紛争がおこるばあい、労働組合の任務は、組合活動の性格から出てくる措置をとることによって、紛争の早急な根絶を促進することである。つまり、ほんとうの不正と無秩序を取りのぞき、大衆の正当な、実現可能な要求をみたす措置をとり、大衆に政治的に働きかけること、その他である。

労働組合の活動が正しいかどうか、うまくいっているかどうかをはかるもっとも重要な、誤りのない尺度の一つは、労働組合が、労働者大衆の利益をほんとうに、あらゆる側面からまもり、紛争の原因を適時に取りのぞくための先見の明ある政策によって、どの程度国营企業の大衆的な紛争をうまく防止しているかを、測定することである。

## 五 労働組合への自由加入制に復すること

賃金労働者をひとりのこらずすべて組合員にしようとする労働組合の形式的な態度は、労働組合にある程度の官僚主義的な歪曲を持ちこみ、労働組合をその広範な組合員大衆から切りはなした。だから、個人的な組合加入についても、集団的な加入についても自由加入制をどこまでも断固として実現しなければならない。労働組合員には、けっして一定の政治的見解をもつようにもとめてはならない。この意味では、宗教にたいする態度の問題のばあいと同様に、労働組合は無党派的でなければならない。プロレタリア国家の労働組合員にもとめるべきことは、同志的な規律を理解することだけであり、勤労者の利益をまもり、勤労者の権力、すなわちソヴェト権力をたすけるために、労働者の力を統一する必要があることを理解することだけである。プロレタリア国家は、法律的な点でも、物質的な点でも、労働者を労働組合に組織することを奨励しなければならない。だが、労働組合は、義務の伴わないどんな権利ももつべきではない。

## 六 労働組合と企業の管理

国家権力を獲得したのちの、プロレタリアートのもっとも重要で、もっとも根本的な利益は、生産物の量をふやし、社会の生産力を大規模にたかめることである。ロシア共産党の綱領のなかにはっきりと立てられているこの任務は、いまわが国では戦後の荒廃、飢餓、経済的崩壊のためにとくに緊急なものとなっている。だから、大工業を復興させるうえで、もっとも急速に、できるだけ確かな成功をおさめることは、それなしには、資本のくびきから労働を解放する全事業の成功は考えられず、社会主義の勝利は考えられないような条件なのである。逆にこのような成功をおさめるためには、いまのロシアの情勢のもとでは、全一の権力を工場管理部の手に集中することが無条件に必要である。通例、単独責任制の原則にもとづいて構成されるこの管理部は、労働組合とむすんだ団体協約にもとづいて、またその団体協約の範囲内で、賃金額を決めることをも、貨幣賃金、配給食糧、作業衣、その他のすべての給与品を配給することを、自主的に取りはからい、最大限の機動の自

由をたもち、生産の向上、欠損、収益のうえで実際に成功しているかどうかをもっとも厳密に点検し、もっともすぐれた、有能な管理者をもっとも慎重に抜擢しなければならない、等々。

こういう条件のもとで、労働組合が企業の管理に直接に干渉することは、すべて無条件に有害で、ゆるしがたいものとみとめなければならない。

だが、この争う余地のない真理をとらえて、工業の社会主義的組織と国営工業の管理とに労働組合が参加することを否定するものと解釈するならば、まったく誤りであろう。このような参加は、正確に決められた形、すなわちつぎの形で必要なのである。

## 七 プロレタリア国家の経済機関と国家機関への 労働組合の参加とその役割

プロレタリアートは、資本主義から社会主義へ移行しつつある国家の階級的基礎である。プロレタリアートは、小農民がきわめて優勢な国では、農民の圧倒的な多数との同盟を、非常にたくみに、慎重に、徐々に実現するばあいにはじめて、この任務を首尾よくはたすことができる。労働組合は、労働者階級の自覚した前衛——共産党——によってその政治的活動全体を指導される国家権力の、もっとも身近な、欠くことのできない協力者でなければならない。労働組合は、総じて共産主義の学校であるが、とくに、すべての労働者大衆のために、つぎに全勤労働者のためにも、社会主義的工業を（ついで、徐々に農業をも）管理する学校とならなければならない。

この原則的な命題から出発して、つぎの時期のために、労働組合がプロレタリア国家の経済機関と国家機関に参加する基本的形態を、決めなければならない。

一、労働組合は、経済に関係のあるすべての経済機関と国家機関の設置に参加し、組合からの候補者をあげ、候補者の実務経歴、経験その他をしめすこと、当該の機関の活動に全責任を負っている経済機関だけが、問題を決定する権利をもっている。このばあい、経済機関はすべての候補者に当該労働組合があたえている評価を考慮に入れる。

二、労働組合のもっとも重要な任務の一つは、労働者と勤労大衆一般から管理者を抜擢し、訓練することである。現在われわれは、十分に満足すべきこのような工業管理者数十人と多少とも満足すべき工業管理者数百人をもっているが、近い将来には、十分に満足すべきもの数百人と多少とも満足すべきもの数千人を必要とする。労働組合は、このような仕事のできる労働者と農民をみな系統的に登録し、彼らが管理活動を学ぼうえでの進歩をくわしく、全面的に、実務的に点検することを、いまの何倍も慎重に、ねばりづよく実行しなければならない。

三、労働組合がプロレタリア国家のすべての計画機関に参加し、経済計画、生産計画、労働者の物質的給与のためのフォンドの支出計画の作成に参加し、ひきつづき国家から供給を受ける企業、賃貸されるか、利権として引きわたされる企業の選定などに参加することを、強化しなければならない。労働組合は、私的企業と賃貸企業における生産統制のどんな機能も直接にはひきうけず、主管国家機関に参加することによってのみ、私的資本主義的生産の規制に参加する。労働組合があらゆる文化＝教育活動と生産宣伝に参加するとあいまって、労働組合のこのような活動は、労働者階級と勤労大衆を国家経済のすべての建設に、ますますひろく、ますますふかく引き入れ、経済生活全般を彼らに知らせ、原

料の調達から製品の市場販売までの工業活動全般を彼らに知らせ、社会主義経済の単一の国家計画についても、この計画の実現にたいする労働者と農民の実際の利害関係についても、ますます具体的な考えをあたえなければならない。

四、賃金率、給与規準などを作成することは、社会主義を建設し、工業の管理に参加する労働組合の活動の欠くことのできない構成部分の一つである。とくに規律裁判所は、一般に人民裁判所の機能と工場管理の機能とにはけっして干渉することなく、確固として労働の規律をたかめ、労働規律と生産性向上とのための文化的な闘争形態をたかめなければならない。

社会主義経済を建設するうえでの労働組合のもっとも重要な機能として以上に列挙したものは、もちろん、労働組合とソヴェト権力とのしかるべき機関が、くわしく細目化しなければならない。国民経済をたかめ、ソヴェト権力をつよめるうえにもっとも重要なことは、経済を組織し、管理するために労働組合のはたした大きな活動の経験を考慮に入れることであり、また直接に、無準備に、権限なしに、無責任に管理に干渉して、すくなくからぬ害をおよぼした誤りを考慮に入れることであり、国全体の国民経済の管理の仕方を労働者と全勤労者に教えこむという、ねばり強い、実務的な、長い年月を見こんだ活動に、慎重に、断固として移っていくことである。

#### 八 労働組合のあらゆる活動の基本条件としての大衆との結びつき

大衆と結びつくこと、すなわち労働者（ついで、全勤労者）の圧倒的多数と結びつくことは、労働組合のあらゆる活動を成功させるもっとも重要な、もっとも基本的な条件である。労働組合の組織と機関の下から絶頂まで、かならずしも共産黨員出とはかぎらない責任ある同志たちの一つのまとまった体制がつくられ、それが実践的に、長年月の経験によって点検されなければならない。これらの同志は、労働者生活のただなかで生活し、労働者生活を残るくまなく知りつくし、どんな問題についても、いつなんどきでも、大衆の気持ち、大衆のほんとうの志向、要求、思想を誤りなく見さだめることができ、大衆の自覚の程度、あれこれの偏見と旧習の名ごりとの影響力を、すこしもまちがって理想化することなしに、判定することができ、大衆に同志的な態度を取り、彼らの要求を親切にみたくことによって、彼らから無限の信頼をうけることができなければならない。黨員数のすくない共産党が、社会主義に移行しつつある（まだいまのところもっとすすんだ国から直接支持されないで）膨大な国を、労働者階級の前衛として指導するときの、もっとも大きな、もっとも恐ろしい危険の一つは、大衆からきりはなされる危険であり、前衛が「戦線をととのえる」ことなく、全労働軍との、すなわち、労働者・農民大衆の圧倒的な多数とのしっかりした結びつきをもたずに、あまりにも先ばしすぎる危険である。発動機から機械への伝導装置がこわれると、優秀な発動機と一流の機械をそなえた最優秀の工場でもうごかなくなるのと同様に、共産党から大衆への伝導装置——労働組合——のつくり方がまちがっているか、それともその活動がまちがっているかすれば、われわれの社会主義建設の破局もまぬかれない。この真理を説明し、この真理に注意を喚起し、この真理を確認するだけでは足りない。この真理は、労働組合の構造全体のなかで、また労働組合の日常活動のなかで組織的にゆるぎないものにされなければならない。

## 九 プロレタリアートの独裁のもとでの労働組合 の地位そのもののなかにある矛盾

以上に述べたすべてのことからして、労働組合のいろいろな任務のあいだのいくつかの矛盾が出てくる。一方では、労働組合の行動のおもな方法は、説得であり、教育であるが、他方では、労働組合は国家権力の参加者として、強制措置に参加することをもこぼむことはできない。一方では、労働組合のおもな任務は、勤労大衆のもっとも直接的な、もっとも身近な利益を擁護することであるが、他方では、労働組合は、国家権力の参加者、国民経済全体の建設者として、圧迫することをこぼむことはできない。一方では、労働組合は軍事的に活動しなければならない。というのは、プロレタリアートの独裁は、もっとも苛烈な、もっとも頑強な、死にものぐるいの階級戦争だからである。他方では、ほかならぬ労働組合にたいしては、軍事的活動に特有な方法をどのばあいよりももちいるべきでない。一方では、労働組合は、大衆に、大衆の一定の水準に、順応することができなければならないが、他方では、大衆の偏見と立ちおくれをけって大目にみてはならず、確固として大衆をますます高い水準に引きあげなければならない、等々。これらの矛盾は、偶然的なものではなく、数十年のあいだ取りのぞくことはできない。なぜなら、資本主義と小規模生産との残存物があるかぎり、社会制度全体のなかで、この残存物と社会主義の芽ばえとが矛盾することは避けられないからである。

ここから二とおりの実践的な結論が出てくる。第一の結論は、こうである。労働組合の活動がうまくいくためには、その任務を正しく理解し、労働組合を正しく建設するだけではたりない。さらに特殊の臨機応変の才が必要であり、個々の具体的なばあいにいちいち、特殊の方法で大衆に接近し、摩擦をもっともすくなくして、この大衆を、文化、経済、政治の点でより高い段階に引きあげることができなければならない。

第二の結論は、こうである。以上に述べた矛盾は、かならず紛争、不一致、摩擦などを生みだすであろう。これらの矛盾をただちに解決するだけの権威をもった最高の機関が必要である。そのような機関こそ、共産党であり、すべての国の共産党の国際的な連合体、コミンテルンである。

### 一〇 労働組合と専門家

この問題にかんする基本的な命題は、ロシア共産党の綱領に述べてある。だが、それらの命題がどの程度実現されているかをしめす諸事実にくりかえし注意をはらわないならば、それは空文にとどまるであろう。最近のそのような事実は、第一に、ウラルばかりでなく、ドンバスでも社会化された鉱山で労働者たちが技師をころした事件であり、第二に、共産党細胞員もソヴェト権力機関も、ゆるしがたい越権的なふるまいをして、やりきれない作業条件をつくりだしたために、モスクワ水道の主任技師ヴェ・ヴェ・オリデンボルグが自殺したことである。このために、全ロシア中央執行委員会は、やむをえず、この事件全体を裁判所の審理にゆだねたのである。

このような現象の責任は、労働組合というよりも、共産党とソヴェト権力全体に比較にならないほど多くかかっている。だが、いま問題なのは、政治的責任の程度を決めることではなく、一定の政治的結論である。たとえ、思想的には共産主義にまったく無縁であるにしても、自分の業務をよく知っていて、これに愛着をもち、良心的に働いているあらゆる

る専門家を、瞳のようにだいじにするように、われわれのすべての指導機関、つまり共産党も、ソヴェト権力も、労働組合もなければ、社会主義建設でどのような大きな成功をおさめることも、問題になりえないのである。特殊な社会層である専門家——これは今後とも共産主義社会の最高の発展段階に達するまでは、特殊な社会層としてとどまる——が、物質上でも、法律上でも、労働者と農民との同志的な協力のうえでも、思想上でも、すなわち自分の仕事に満足し、自分の仕事が資本家階級の利己的な利害にかかわりなく、社会的に有益なことを自覚するうえでも、資本主義にくらべて社会主義のもとでより良い生活をするを、われわれはまだすぐには実現できないが、どんなことがあっても、それを実現しなければならない。専門家にあらゆる面から保障をあたえ、彼らのうちの優秀なものを激励し、彼らの利益を擁護し、保護する等々のために、実際的な成果のあがる計画的な仕事をしていないような官庁を、どうにかがまんのできる仕事ぶりのものとみとめることには、だれも同意はしないであろう。

労働組合は、一定の官庁の利益という見地からでなく、労働と国民経済全体の利益という見地から、こういうすべての種類の仕事をみなおこなわなければならない（あるいは、あらゆる官庁のそれぞれの仕事に系統的に参加しなければならない）。専門家について言えば、もっとも広範な勤労大衆と専門家との正しい相互関係を樹立するために、これらの大衆に日ごと働きかけるといふ、もっとも苦しい、骨のおれる仕事が労働組合に課されている。このような仕事だけが、ほんとうに重大な実際的な成果をあげることができる。

## 十一 労働組合。労働者階級にたいする

### 小ブルジョア的影響

党外労働者の非常に広範な層を統合するときにはじめて、労働組合は、現実的なものとなる。このことから、不可避的に出てくる結論は、農民がきわめて優勢な国ではとくに、資本主義の残存物と小規模生産との上部構造である政治的影響が、ほかならぬ労働組合のあいだに比較的根づよいということである。これは小ブルジョア的な影響である、すなわち一方では、エス・エル＝メンシェヴィキ（第二インタナショナルと第二半インタナショナルの諸党のロシア的変種）の影響であり、他方では、無政府主義の影響である。利己的な階級的動機からでなく、思想のうえから資本主義を擁護し、自分たちの説く「民主主義」、「平等」、「自由」一般は非階級的な意義をもっていると確信しつづけている、かなりな数の人々は、これらの潮流のあいだにだけのこっている。

わが国で労働組合のあいだにみられるこのような小ブルジョア思想の名ごりは（まれにはその復活も）、まさに以上に述べた特殊な経済的原因によって説明すべきものであって、個々のグループの役割、まして個々の人物の役割によって説明すべきものではない。だから共産党も、文化＝教育活動をおこなっているソヴェト機関も、労働組合のなかのすべての共産黨員も、労働組合のあいだの小ブルジョア的な影響、潮流、偏向にたいする思想闘争にはるかに多くの注意をはらわなければならない——新経済政策は資本主義をいくらかつよめざるをえないから、なおさらそうである。労働者階級にたいする小ブルジョア的影響とのたたかいをつよめて、これに対抗することは、緊急に必要である。

ロシア共産党（ボ）中央委員会

第33巻『新経済政策の諸条件のもとでの労働組合の役割と任務について』P182～193

## ポイント

- 新経済政策のもとで、国家的な規制をくわえられる自由商業と資本主義が現在ゆるされ、発展しており、他方では、社会化された国営企業が、いわゆる採算制に、つまり商業的原則にうつされている。国が一般に文化的に立ちおくれ、疲弊しているので、大衆の意識のなかでは、企業の管理部と、その企業で働く労働者との対立を、不可避免的に程度の差こそあれ感じさせる。
- 国家が私的商業と私経営的資本主義を規制しても、労働と資本の階級的な利害の対立は、無条件にのこる。だから、今後は労働組合のもっとも主要な任務の一つは、資本とたたかうプロレタリアートの階級的利益をあらゆる面から、あらゆる手段でまもることである。そのために、労働組合の機関は、適当に建てなおし、形をかえ、あるいは拡充しなければならない。
- 国営企業を大々的に商業的原則にうつすことは、企業内の労働条件の問題について、労働者大衆と国営企業の企業長、管理者およびこれらの企業が属する官庁とのあいだに利害のある程度の対立をかならず生みだす。だから、勤労者の利益をまもり、可能なかぎり彼らの物質的生活状態の向上をたすけ、国家機関を官僚主義的にゆがめることによる経済機関の誤りと行きすぎをたえず是正する義務が、無条件に労働組合に負わされる。
- 階級が存在しているかぎり、階級闘争は避けられない。資本主義から社会主義への過渡期に階級が存在するのは避けられない。小規模経営と市場の支配とのすべての根が切りとられるまでは、経済闘争の存在とその不可避性を、公然とみとめなければならない。

資本主義のもとではストライキ闘争の最終の目的は国家機関を破壊し、その階級的な国家権力を打倒することであるが、ロシアのような過渡的な型のプロレタリア国家のもとでは、労働者階級のあらゆる行動の最終の目的は、この国家を官僚主義的にゆがめることとたたかい、この国家の誤りや弱点とたたかい、この国家の統制をふりきってのがれようとする資本家の階級的な欲望などとたたかうことによって、プロレタリア国家とプロレタリア的・階級的な国家権力をつよめることである。

労働者階級の個々の集団が労働者国家の個々の施設や機関と摩擦や紛争をおこすばあい、労働組合の任務は、——他の労働者集団に損害をおよぼすことなく、労働者国家とその経済全体の発展の害にならないで実現されうるかぎり——その組合が代表している労働者集団にとって最大限に利益になるように、紛争をもっとも迅速に、円満にまとめるのをたすけることである。そのためには、労働組合は、そのしかるべき機関の手を通じて、双方の正確にまとめあげた要求と提案にもとづいて、しかるべき関係経済機関と交渉をはじめるとして、上級国家機関に提訴するなりして、調停者として干渉しなければならない。

これらを通じて、ほんとうの不正と無秩序を取りのぞき、大衆の正当な、実現可能な要求をみたす措置をとり、大衆に政治的に働きかけなければならない。だから、労働組合の活動が正しいかどうか、うまくいっているかどうかは、労働組合が、労働者大



衆の利益をほんとうに、あらゆる側面からまもり、紛争の原因を適時に取りのぞくための先見の明ある政策によって、どの程度国営企業の大衆的な紛争をうまく防止しているかどうかで明らかになる

- 賃金労働者をひとりのこらずすべて組合員にしようとする労働組合の形式的な態度は、労働組合にある程度の官僚主義的な歪曲を持ちこみ、労働組合をその広範な組合員大衆から切りはなした。だから、組合加入については、自由加入制をどこまでも断固として実現しなければならない。そして、労働組合は無党派的でなければならない。労働組合の役割は、勤労者の利益をまもり、勤労者の権力、すなわちソヴェト権力をたすけるために、労働者の力を統一する必要があることを組合員に理解させることだけである。プロレタリア国家は、労働者を労働組合に組織することを奨励するが、労働組合は、義務の伴わないどんな特権ももつてはならない。
- 社会主義の勝利のためには、いまのロシアの情勢のもとでは、全一の権力を工場管理部の手に集中することが無条件に必要である。だから、こういう条件のもとで、労働組合が企業の管理に直接に干渉することは、すべて無条件に有害で、ゆるしがたいことである。だが、この争う余地のない真理をとらえて、工業の社会主義的組織と国営工業の管理とに労働組合が参加することを否定するものと解釈するならば、まったく誤りである。 指揮命令系統づくりへの多様な参加と指揮命令の一元化。
- 労働組合は、労働者階級の自覚した前衛によってその政治的活動全体を指導される国家権力の、もっとも身近な、欠くことのできない協力者である。労働組合は、総じて共産主義の学校であり、社会主義的工業を管理する学校でもある。そのための、労働組合がプロレタリア国家の経済機関と国家機関に参加する基本的形態は次の通りである。
  - 一、労働組合は、経済に関係のあるすべての経済機関と国家機関の設置に参加し、その組織のための候補者を推薦しなければならない。
  - 二、労働組合のもっとも重要な任務の一つは、労働者と勤労大衆一般から管理者を抜擢し、訓練することであり、労働組合は、労働者が管理活動を学ぶうえでの進歩をくわしく、全面的に、実務的に点検することを、ねばりつよく実行しなければならない。
  - 三、労働組合はプロレタリア国家のすべての計画機関に参加し、計画の作成に参加し、生産統制に参加しなければならない。しかし、労働組合は、私的企業と賃貸企業における生産統制のどんな機能も直接にはひきうけず、主管国家機関に参加することによってのみ、私的資本主義的生産の規制に参加する。労働組合のこのような活動によって、労働者階級と勤労大衆を国家経済のすべての建設に、ますますひろく、ますますふかく引きいれ、経済生活全般を彼らに知らせ、現実経済について、ますます具体的な考えをあたえることができる。
  - 四、賃金率、給与規準などを作成することは、社会主義を建設し、工業の管理に参加する労働組合の活動の欠くことのできない構成部分の一つである。確固として労働の規律をたかめ、労働規律と生産性向上とのための文化的な闘争形態をたかめなければならない。国民経済をたかめ、ソヴェト権力をつよめるうえにもっとも重要なことは、国全体

の国民経済の管理の仕方を、ねばり強い、実務的な、長い年月を見こんだ活動によって、労働者と全勤労働者に学ばせることである。

- 大衆と結びつくこと、すなわち労働者の圧倒的多数と結びつくことは、労働組合のあらゆる活動を成功させるもっとも重要な、もっとも基本的な条件である。党员数のすくない共産党が、社会主義に移行しつつある膨大な国を、労働者階級の前衛として指導するときの、もっとも大きな、もっとも恐ろしい危険の一つは、大衆からきりはなされる危険である。共産党から大衆への伝導装置——労働組合——のつくり方がまちがっているか、それともその活動がまちがっているかすれば、われわれの社会主義建設の破局もまぬかれない。この真理は、労働組合の構造全体のなかで、また労働組合の日常活動のなかで組織的にゆるぎないものにされなければならない。
- 労働組合のいろいろな任務のあいだのいくつかの矛盾がある。これらの矛盾は、偶然的なものではなく、数十年のあいだ取りのぞくことはできない。資本主義と小規模生産との残存物があるかぎり、社会制度全体のなかで、この残存物と社会主義の芽ばえとが矛盾することは避けられない。だから、労働組合の活動がうまくいくためには、その任務を正しく理解し、労働組合を正しく建設するだけではたりない。さらに特殊の臨機応変の才が必要であり、個々の具体的なばあいにいちいち、特殊の方法で大衆に接近し、摩擦をもっともすくなくして、この大衆を、文化、経済、政治の点でより高い段階に引きあげなければならない。  
そして、この矛盾は、かならず紛争、不一致、摩擦などを生みだすであろう。これらの矛盾をただちに解決するだけの権威をもった最高の機関としての共産党が必要となる。
- 思想的には共産主義にまったく無縁であるにしても、自分の業務をよく知っていて、これに愛着をもち、良心的に働いているあらゆる専門家を、腫のようにだいじにするように、われわれのすべての指導機関、つまり共産党も、ソヴェト権力も、労働組合もならなければ、社会主義建設でどのような大きな成功をおさめることもできない。専門家が、自分の仕事に満足し、資本主義にくらべて社会主義のもとでより良い生活をするを、どんなことがあっても、それを実現しなければならない。専門家にあらゆる面から保障をあたえ、彼らのうちの優秀なものを激励し、彼らの利益を擁護し、保護する等々のために、実際的な成果のあがる計画的な仕事をしなければならない。労働組合には、労働と国民経済全体の利益という見地から、もっとも広範な勤労大衆と専門家との正しい相互関係を樹立するために、これらの大衆に日ごと働きかけるとい、もっとも苦しい、骨のおれる仕事が課されている。
- 党外労働者の非常に広範な層を統合するときにはじめて、労働組合は、現実的なものとなる。労働組合のなかのすべての共産党员は、労働組合のあいだの小ブルジョア的な影響、潮流、偏向にたいする思想闘争にはるかに多くの注意をはらわなければならない。労働者階級にたいする小ブルジョア的影響とのたたかひをつよめて、これに対抗することは、緊急に必要である。